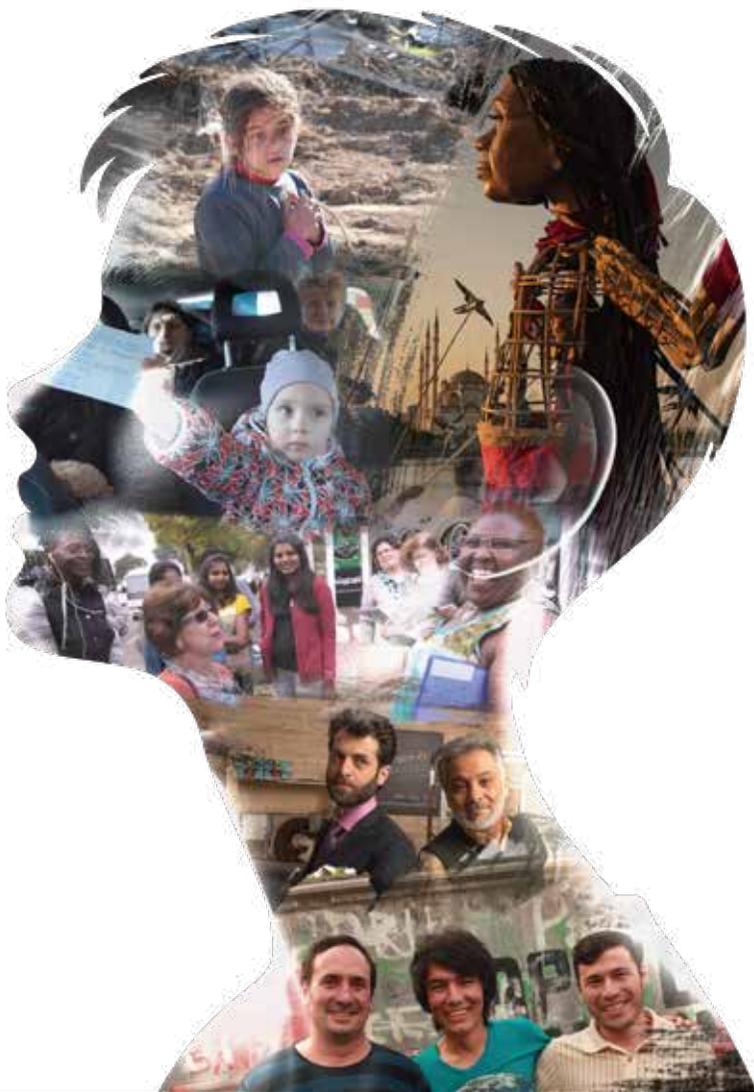


日本初公開4作品を含む珠玉の6作品を公開/配信！



難民映画祭

REFUGEE FILM FESTIVAL



世界を想う。
平和を問う。

オンライン開催

2024.11.7 [木] - 11.30 [土]

劇場開催(東京)

2024.11.7 [木] 会場: TOHOシネマズ 六本木ヒルズ

寄付つき鑑賞
または 無料鑑賞

主催	JAPAN FOR UNHCR 難民を守る、難民を支える、国連UNHCR協会	協力	UNHCR The UN Refugee Agency	パートナー	jica	後援	一般財団法人 自治体国際化協会		
特別協賛	Canon	MIYOSHI	UNIQLO	協賛	SONY	TOHO	TOHO CINEMA	JVTA	LIVE BOARD
字幕制作協力	日本映像翻訳アカデミー株式会社	プロジェクト協力	オクノテ、Peatix Japan 株式会社、株式会社フェイス						

詳細・申込み



(五十音順)

難民映画祭について Concept & Message

紛争や迫害で家を追われた人の数は、約1億2,000万人。
日本に暮らす私たちがほぼ一人残らず家を追われてしまう、
それほどの規模で、今この瞬間も増え続けています。
あまりにも大きな数字の中にいるのは、
家族を大切に思い、ささやかな幸せを願う、私たちと何ら変わらない一人ひとりです。
ある日突然「難民」と呼ばれるようになった人たちにも、
かけがえのない人生があることを知ってほしい。
映画を通じて、日本各地に支援の輪を広げたい。
そんな思いから、2006年に「難民映画祭」は始まりました。
困難を生き抜く人間の力強さ、そして希望を伝える珠玉の作品をお届けいたします。
一人でも多くの難民が、難民でなくなる日を願って。



UNHCR 親善大使・MIYAVI からのメッセージ

なぜ、世界は平和にならないのだろう。なぜ、故郷を追われる人たちは増え続けるのだろう。僕たちにできることは、他に何かあるのだろう。UNHCR 親善大使に就任して7年、ずっと自分に問い続けています。毎年開催されている「難民映画祭」で上映される作品は、今、この瞬間、地球のどこかで起きている現実を映し出しています。しかし、そこに描かれているのは決して希望の見えない物語ではありません。故郷を追われながらも、困難を乗り越えて生き抜く人々の姿に僕たちの心も強く揺さぶられます。世界を想い、平和を問う。あなたの踏み出した一歩が、世界の誰かの希望へとつながる。

UNHCR 親善大使 / アーティスト
MIYAVI



鑑賞方法 How to Participate

本映画祭は、より多くの方にご覧いただきたい思いから、オンライン配信と劇場上映(東京)のハイブリッド開催です。
※オンライン配信のご視聴は日本国内在住の方に限られます(オンライン配信協力: ユナイテッドピープル株式会社)

難民映画祭公式サイトに
アクセス!

右のQRコードまたは
「難民映画祭」で検索!



各作品の申込ボタンから
Peatixにてチケットを
お申込みください

オンラインで鑑賞する >
(6作品まとめて鑑賞)

▶ オンライン開催

チケット申込み時の登録アドレスに
お送りするURLからご視聴ください

🎪 劇場開催

当日劇場スタッフにチケット画面を
ご提示ください

参加費 Participation Fee

本映画祭は、企業・団体・個人の皆様のご寄付やご協力によって運営されていますので、「寄付つき鑑賞」にご協力いただければ幸いです。将来を担う若年層の方たちが参加しやすいように、「無料鑑賞」の選択肢を設けております。

1作品選んで
鑑賞

寄付つき鑑賞 (1,000円~)

無料鑑賞

6作品まとめて
鑑賞

寄付つき鑑賞 (3,000円~)

無料鑑賞

※上記寄付は匿名寄付として、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の難民援助活動に役立てられます。匿名寄付に対する個人情報は保持しないため、国連UNHCR協会からの個別の領収証の発行はありませんのでご了承ください。

※難民映画祭で上映する映画で表現される内容は、本映画祭の開催にかかわる企業、団体、その他いかなる個人の意見を代表または反映しているものではありません。

第19回難民映画祭オープニング上映作品

ザ・ウォーク ～少女アマル、8000キロの旅～

The Walk

シリア難民の少女が、社会に難民問題を問いかける

アマルと呼ばれる高さ3.5メートルの人形が、同伴者のいない難民の子どもの苦境を知ってもらおうと、ヨーロッパを横断する旅にでる。道中でアマルは、同じような境遇にある難民や、自分を受け入れない大勢の人たちに出会う。アマルは、この旅で感じる希望と恐れを表現したりアルな声(シリア難民による内なる独白)を持つ実在の少女である。本作は、芸術的な手法で、安全と居場所を探し求めるアマルの旅を描きながら、様々な感情と葛藤する少女の姿を映し出す。

目 作品情報
ドキュメンタリー / 80分 / 2023年 / 字幕：日本語・英語

ニューヨーク・ドキュメンタリー映画祭2023
ノミネート

日本初上映

ウクライナからの避難の旅路、 それぞれの家族の想い

ビルバオ国際短編ドキュメンタリー映画祭2023
長編ドキュメンタリー部門グランプリ賞
シカゴ国際映画祭2023
長編ドキュメンタリー部門 銀賞
シェフィールド国際ドキュメンタリー映画祭2023
インターナショナル・コンペティション部門 審査員大賞
チューリッヒ映画祭2023
ゴールデンアイ賞(国際系国際ドキュメンタリー映画賞)

永遠の故郷 ウクライナを逃れて

In the Rearview

ウクライナの市民が恐怖の紛争から逃れる避難の旅路を追った観察記録である。監督は自ら車を運転し、地雷原や軍事検問所を通過しながら、人々の移動を手助けする。カメラは、車のバックミラーに映る表情、後部座席で繰り広げられる会話を記録しながら、戦時下におかれた人たちの思いを映し出す。ウクライナからポーランドまでの何万キロもの道中で、車は、待合室、病院、避難所、そして、偶然に乗り合わせた同胞の告白の場となったのである。

目 作品情報
ドキュメンタリー / 84分 / 2023年 / 字幕：日本語・英語

日本初上映

定住先のカナダで起業に成功した、 シリア難民のサクセスストーリー

コルチエラ映画祭2021
最優秀監督賞
ライジングサン国際映画祭2021
最優秀映画賞・最優秀俳優賞
ボート・タウンSEND映画祭2021
ワールドワイド賞

ピース・バイ・チョコレート

Peace by Chocolate

シリア内戦により難民となったテレクは家族と共にカナダへ移住。一家の受け入れ先は、故郷のダマスカスに比べてはるかに小さな街だったが、内戦で宙ぶらりんになった医学部卒業を目指すテレクは方法を模索する。一方、一流のチョコレート職人だった父親のイッサムは、移住先の人々の支援を得てチョコレート販売を再開する。家族、平和、そして人々に幸せを運ぶチョコレートを描いた、実在するチョコレート店の心温まるサクセスストーリー。

目 作品情報
ドラマ / 96分 / 2021年 / 字幕：日本語・英語

日本初上映



難民をエンパワーするのは、
コミュニティとのつながり

孤立からつながりへ ～ローズマリーの流儀～

Rosemary's Way

オーストラリアに定住した難民や移民の中には、社会とのつながりをもてずに孤立した人生を過ごしている女性たちがいる。警察とコミュニティの橋渡し役を務めるローズマリーは、経験したことのない異文化を分かち合おうと、イラク、コンゴ、ペルーなど多様な文化圏からやってきた女性たちと、コミュニティで受け入れる地元の人たちの説得に奔走する。ローズマリーの手助けによって、孤立からつながりへと人生を変えた女性たちの輝かしい姿と勇気を称えたドキュメンタリー。

目 作品情報
ドキュメンタリー / 75分 / 2020年 / 字幕：日本語・英語

日本初上映



困難に直面しながらも
人生を切り拓いていく、
難民の勇気と行動力

学校をつくる、難民の挑戦

The Staging Post

オーストラリア政府がボートで到着したすべての庇護希望者を強制収容する事態となり、インドネシアのチサルア村で数年を過ごすことになったハザラ系アフガニスタン難民、ムザファルとハディムという2人の若者がいた。宙ぶらりんな状況の中でも、よりよい生活を求めて立ち上がった彼らは、コミュニティを作り、難民のための教育革命となる学校を立ち上げた。友情、つながり、コミュニティの力がもたらした大きな希望についての実話である。

目 作品情報
ドキュメンタリー / 65分 / 2017年 / 字幕：日本語・英語

第7回難民映画祭りバイバル上映



爆撃の下で生き抜く、
子どもたちの心の叫び

ぼくたちは見た - ガザ・サムニ家の子どもたち -

What We Saw: Gaza, the Children of Samuni Family

1400人という多くの犠牲を出した、2008年から09年にかけてのイスラエル軍によるパレスチナ・ガザ地区への攻撃。ガザ南部の農業地帯ゼイトゥーンに住むサムニ家の子どもたちは、一族が一度に29人も殺されるという、過酷な事件を経験していた。監督・古居みずえのカメラは、家族を失いながらも、懸命に生きる子どもたちの生活を静かに見守り、彼らの心の傷と変化を写し出す。子どもたちの証言から垣間見られたもの、それは“生きる力”“人間力”だった。

目 作品情報
ドキュメンタリー / 89分 / 2011年 / 字幕：日本語・英語

難民問題について もっと知りたくなったら

映画祭期間中、上映作品の背景にある難民問題や社会について学べるオンラインセミナーを開催します。

参加無料
各回 20:00-21:00
Zoom開催
※要申込み

11.13 [水] 11.27 [水] ※同内容

世界の難民問題、そして、UNHCRの人道支援について学ぶ(ベーシック編)

中村 恵 (国連UNHCR協会・事務局長特命 渉外担当)

紛争や迫害で故郷を追われた人たちは、この10年で2倍に急増し戦後最多となりました。今や世界人口の69人に1人が自国の保護を受けられず避難生活を送っています。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の視点から世界情勢の理解を深め、UNHCRが世界各地の人道危機にどのように対応しているのかについて知ることができるセミナー。



JAPAN FOR
UNHCR
難民を守る。難民を支える。
国連UNHCR協会

11.15 [金]

ウクライナ人道危機の今

松永 秀樹 (独立行政法人 国際協力機構・ウクライナ事務所長)

白戸 純 (UNHCRポーランド事務所・副代表)

ウクライナの人道危機発生から2年半。避難した人、留まって暮らす人、いったんは避難したけれど帰還した人。今、ウクライナの国内外で暮らす市民はどのような日常生活を送っているのか、現地での援助活動に携わっている人たちから話を聴くセミナー。



関連作品:「永遠の故郷ウクライナを逃れて」

11.21 [木]

紛争下で暮らす子どもたち

古居みずえ (ジャーナリスト、「ぼくたちは見た - ガザ・サム二家の子どもたち -」監督)

サヘル・ローズ (俳優、タレント)

世界各地で起こっている紛争、戦争、人道危機。爆撃や暴力に日々さらされてきた子どもたちにはどんな影響があるのでしょうか。30年以上ガザやシリアなどで子どもや女性の取材を続けてきた古居みずえさんと、難民の子どもたちの問題について、映画、講演、出版などを通じて発信し、自ら支援活動にも取り組んでいるサヘル・ローズさんによるセミナー。



関連作品:「ぼくたちは見た - ガザ・サム二家の子どもたち -」「ガザ・ウォーク〜少女アマル、8000キロの旅〜」

11.28 [木]

日本社会の難民問題について考えてみる

奈良部 慎平 (公益財団法人JELA・事務長)

ラーマ (シリア出身、「難民高等教育プログラム」卒業生、教育系企業の社員)

紛争や迫害を逃れて日本で暮らす人たちがいます。難民となった人たちを受け入れ、ともに暮らしていく - 日本はどんな社会に成長していったらよいでしょうか。一緒に考えてみませんか。



関連作品:「ピース・バイ・チョコレート」「学校をつくる、難民の挑戦」「孤立からつながりへ〜ローズマリーの流儀〜」

各セミナーの申込方法、参加方法は、難民映画祭公式サイトをご覧ください

難民映画祭

REFUGEE FILM FESTIVAL

PARTNERS

地域や学校で、上映イベントを企画しませんか？

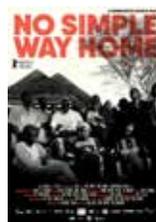
難民映画祭の趣旨に賛同し、学校が主催者となって上映会を開催する取り組み「学校パートナーズ」がスタートしたのは2015年。取り組みは全国の学校に拡大し、その枠は今では企業・団体・自治体などにも広がっています。国連UNHCR協会は、過去に上映した作品から通年で約10本のラインナップを揃えており、広報ツールやパートナーズのロゴ提供などを通じて上映会をサポートします。これまでにのべ200を超えるパートナーズによって開催された上映イベントには、2万人を超える人たちが参加しました。ぜひ、難民映画祭パートナーズとして、皆さんの学校や地元で上映イベントを開催してみませんか？



難民映画祭パートナーズ主催の上映会を観にいこう！

1年を通じて、全国各地の大学や自治体、団体などで難民映画祭パートナーズ上映会が開催されています。これまでに難民映画祭で上映した名作をご鑑賞いただけます。

「難民映画祭パートナーズ」のラインナップ (2024年1月～12月)



2025年1月～12月のラインナップについては、ウェブサイトでご確認ください。

難民映画祭パートナーズの参加方法、開催予定の上映イベントは難民映画祭公式サイトをご覧ください
開催のためのガイドラインをご希望の方は、Eメールにてご連絡ください。Eメール: rff@japanforunhcr.org



すべての難民が難民でなくなるその日まで

紛争や迫害である日突然故郷を追われた人々。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は、難民となった人たちの命を守り、将来生活を再建できる日まで寄り添い続けます。国連UNHCR協会は、UNHCRの日本における公式支援窓口として、UNHCRの活動を支えるための広報・募金活動を実施しています。あなたのご支援は、厳しい避難生活を支え、難民の生きる希望になります。

※ご寄付は寄付金控除(税制上の優遇処置)の対象になります。<https://www.japanforunhcr.org/>



ご寄付のお申込み・資料請求・お問い合わせはこちらから

ゴシエン ナンミンニ
0120-540-732

通話料無料
(平日10時～19時)



難民を守る。難民を支える。
国連UNHCR協会

特定非営利活動法人 国連UNHCR協会 〒107-0062 東京都港区南青山6-10-11 ウェスレーセンター 3階 03-4366-7373